

# 北海道大学総合博物館

## ボランティア・ニュース 第4号

### シリーズ 博物館の展示

2005年11月 準備中だった2階の展示が公開されました。シリーズで展示内容の解説を紹介して

いく予定です。第一弾として考古学を取り上げました。

### 北海道大学総合博物館2F考古学展示

#### 「オホーツク文化研究はどのように深められてきたか」

#### 1 経緯

古代、オホーツク海南岸に展開した海洋民のオホーツク文化の研究は、東大、北大、筑波大(旧東京教育大)、北海道開拓記念館それにサハリン大学が中心になってすすめてきました。

北大では2001年の総合博物館設立を期に、学内のオホーツク文化にかかる資料を集約一本化して保管・活用することにしました。この結果、総合

博物館は5大オホーツク文化遺跡コレクション(礼文島香深井1遺跡、礼文島元地遺跡、稚内市オンコロマナイ遺跡、北見枝幸町目梨泊遺跡、網走市モヨロ貝塚遺跡)を擁するようになりました。これは現在国内外最大の規模であり、研究者の利用が絶えない状況にあります。

#### 2 展示の方針

北大はオホーツク文化の調査研究をリードしてきました。今回の展示では、その成果を検証し、なにが明らかにされ、なにが課題として残されているかを明示する方針をとりました。後者を展示に盛り込もうとすると必然的に、定説化した成果だけでなく、論争中のテーマも取り上げることになります。

具体的には、すでに報告書を刊行して成果を公

開済みの香深井1遺跡、オンコロマナイ遺跡を中心に展示し、あわせて、報告書刊行準備中の元地遺跡、目梨泊遺跡、モヨロ貝塚遺跡の位置づけ・意味づけを行いました。

また収蔵庫・分析室の一部を開放しました。来館者に、ここで大学における考古学研究の一端に触れ、考古学への興味をふかめ、親しみをもってもらいたい。(天野)



オホーツク人と信仰についての展示



遺跡から出土した資料を収蔵・展示

## 博物館のボランティアって何やるところ？

博物館のボランティアと聞いても何やるところ？、私でも出来るの？と疑問を持っている人も多いことでしょう。どんな活動をしているか、現在活動している人にちょっと聞いてみました。

## ボランティア「化石グループ」の紹介

中野 系（化石グループボランティア）

化石グループのボランティアは、相原リーダーを中心に13名登録されていますが、実際に活動している人数は5～6名程度です。このグループに関し、前段は仕事の内容を、後段はムード作りについてご紹介します。

1：仕事の内容は「化石クリーニング」と「標本整理(データベース)」に2分されます。後者は、安田さん、岡田さんを中心に今年から本格的に活

動開始になります。それまで、箕浦先生と古田さんがコツコツと進めていましたが、これからは、ピッチが上がっていく事を期待している状態です。何せ膨大な数の化石があるので、どのくらい時間がかかるか見当もつきません。

一方の化石クリーニングは、部屋の設備から見て、次のように分類されます。

物理的 処理	手作業（タガネ、ハンマー）		
	機械	マシン(シカゴニューマチック等)	
		サンドブラスト(砂、プラスチック等)	×
化学的 処理	酸処理(蟻酸 等)		×～

印は活動中、 ×印は未活動

お判りのように、設備の半分近くがまだ充分活用されていない為、「もったいない」状態になっています。私個人の目標として、サンドブラストと酸処理に今年は挑戦しようと思っています。化石のクリーニングをする人数が少ないので、処理する数より貯まる数の方が多いのが実態ではないでしょうか。まあ、焦らず一つ一つこなして行くしかないでしょう！

2：では、後段の「ムード作り」の話を柔らかくお

伝えします。標本整理の場合、雑談を交え楽しく作業する事が出来ます。(昆虫や植物の方を見ていると羨ましく思います。)化石のクリーニングは音がうるさく、会話は不可能です。(扉を開けたまま、うっかり作業していたら、大原先生にドアを閉めるよう注意された事もあります。)そういう訳で、会話のない分、作業が少しでもやり易くなる雰囲気は大切になります。そのムード作りを幾つか列挙いたします。

### 最初が肝心！

と言うことで、入り口のドアは恐竜を中心に装飾され、他の扉を圧倒しています。大長老の石橋さんは(自称ヨン様でなくヨタ様 87歳)「ネオンをつけたらどうか？」と提案するのですが・・・

### 部屋は綺麗に！

そのヨタ様は率先して床磨きなどをされるので、この1年ですっかり綺麗な部屋になりました。(仕方なく、私もやらざるを得なくなりました。)昨年末、岡田さんを含め大掃除をした所、換気扇の羽根が灰色でなく青色なのが初めて判明しました。

### 探す時間を無くせ！

兎に角、必要なものが何処にあるのか、無いのか、その都度バタバタ探す始末。ある時、「カッターナイフぐらい揃えてくれ！」と箕浦先生も怒り出す。それ以来、引出しの中味が判るようにし、不足している備品を充当し始めた。

### 飲みましょう！

親睦もボランティアのムード作りに必要な要素。指導教官小林先生と我々との飲み会も時折交えながら、明るく活動出来ればと願っています。以上、仕事の内容とムード作りについて、簡単にご紹介しました。今夏、恐竜展が開催されるにあたり、我々化石グループは、当然頑張らねばならないと思っています。他のボランティアグループの皆様、マンモス展同様、積極的ご協力をこの場をお借りし

## 陸上植物標本庫の学生ボランティアについて

持田 誠（農学研究科北方資源生態学講座植物体系学分野）

植物標本庫（ハーバリウム）では、押し葉標本のマウント（標本台紙への標本固定とラベル付与）を始め、分類群毎に標本棚へ収蔵する為の配架分類および配架作業（ソーティング）や破損標本の補修や同定などの作業がある。中でもソーティングには植物学に関する基礎的な素養が必要となる事から、陸上植物標本庫（SAPS）では、総合博物館内と北大植物園内に設置されている農学部・大学院農学研究科植物体系学講座の学生によって、毎月1回、標本整理作業が持たれている。これは博物館から見ると標本整理のボランティアであり、講座から見ると標本の取り扱いや分類に対する知識や技術を学ぶ訓練と言える。大学博物館ならではの実習として意義がある。

標本庫には多くの未整理標本がある。これらの標本についてラベル付与などの標本化作業を行うことも重要な作業であり、大学院生を中心に実施している。未整理標本についてはラベルが整備されていないものが多く、植物学的な知識に加え、様々な周辺情報を十分に吟味して慎重に行う。

これら植物体系学講座の学生を母体とし、講座外の北大生や卒業生をも交えて行われている学生

ボランティアの活動も、毎月1回持たれている。現在は、北海道大学自然研究会の学生がメンバーの中心となっている。ここでは、植物体系学講座の学生の指導を受けながら、主に標本のマウントや修復を担当している。現在のところ、ボランティア学生に対する体系的な技術講習などは実施していないが、より多くの北大生に博物館資料との関わりを持ってもらいたいという観点から、技術講習研究会などの必要性も感じている。

植物体系学講座からは、既に3名の学芸員と1名の博物館職員が誕生し、ハーバリウム（植物標本庫）で植物標本の維持管理作業にあたっている。今後は講座員に留まらず、多くの北大生が各地の博物館等において資料・標本管理の専門職として活躍される事を期待している。その為にも、総合博物館における標本整理活動が、北大生にとって博物館資料の取り扱い技術や基礎知識を習得する身近な訓練の場となるよう、活動の内容にも様々な工夫を加えていきたいと考えている。

## 解説員に訊いてしまおう

望月 直（展示解説グループ）

博物館や動物園を見学するのが好きで、各地の施設を巡ったりしている。以前は独り黙々と標本を眺めていたのだが、最近はなるべく見学ツアーに参加するようにしている。

哀しいかな、ひたすらに標本に対峙しても意外に理解は深まらないもので、おそらくその原因は二つあると思う。一つは、基礎的な知識はおよそ足りていない点、もう一つは、自分の発想は想像以上に凝り固まっている点である。そしてその最も簡単な解決法は「他人にヒントをもらえ」なの

である。備え付けの解説文書にもヒントは散りばめられているが、それとて定型の展示物にすぎない。対話という印象に残りやすい方法である点、見学者一人一人の「痒いところに手が届く」という点が解説員による解説の魅力である。

実のところ、自分は博物館で解説する役に回ることもあり、見学ツアーへの参加は半ば同業者としての勉強という意味もあるが、純粋に博物館などを楽しむためでもあったりする。

## 博物館ボランティアの会の総会は

2006年度ボランティアの会の総会は5月中・下旬に開催予定です。近くなったら案内をしますので、出席方よろしく御願います。

## 北大総合博物館ショップを訪問

博物館 2 階にショップが開店したのは 2005 年 11 月のこと。バイト店員も、売り子姿が身に付いた頃と思い取材をしました。

2 月上旬の晴れた日にショップを訪ねると農学部 3 年の女子学生店員が居ました。話によると年末から最近までは見学者数も少なかったが、ここ数日は札幌雪祭りのせいか

訪問者が増えてきたそう。

3 月になると新入生たちが来訪しますよと、胸を膨らませていました。

またショップには博物館オリジナルの商品も展示され、博物館らしくなってきたそうです。(沼田)



### 嬉しいお知らせ

まんが『どらえもん の 恐竜ニッポン大探検』に博物館と小林先生が登場。ショップにもならぶ予定。もう入荷しているかも。

### 事務スタッフが替わりました。



昨年 10 月、2 年半事務係長として奮闘されていた三好係長が病院に異動し、学術国際部から平林係長が着任、併せてスタッフが 1 名増えて更に強力になりました。事務室のドアはオープンです。お気軽に声かけしてください。

### 編集後記

ここにボランティア・ニュース第 4 号をお届けできることにし感謝致しているところです。マンモス展示のお手伝いで発揮したパワーをいろいろな形でひろげていきましょう。(星野)

雪もとけてすっかり春らしくなりました。気分はるんるん。新しく旅立つ人、ここでまた頑張る人、新年度にむけて、また一緒に頑張りましょう。(沼田)

卒業・進学・就職と学生・院生ボランティアの皆さん、1 年間ご苦労様でした。新しい道に進んでも頑張ってください。そして引き続きお力を貸して下さる学生、院生、市民ボランティアの皆さん、2006 年度も引き続き頑張りましょう。(永山)

### ボランティア・ニュース

編集・発行  
北海道大学総合博物館ボランティアの会  
発行日：2006 年 3 月  
連絡先  
060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目